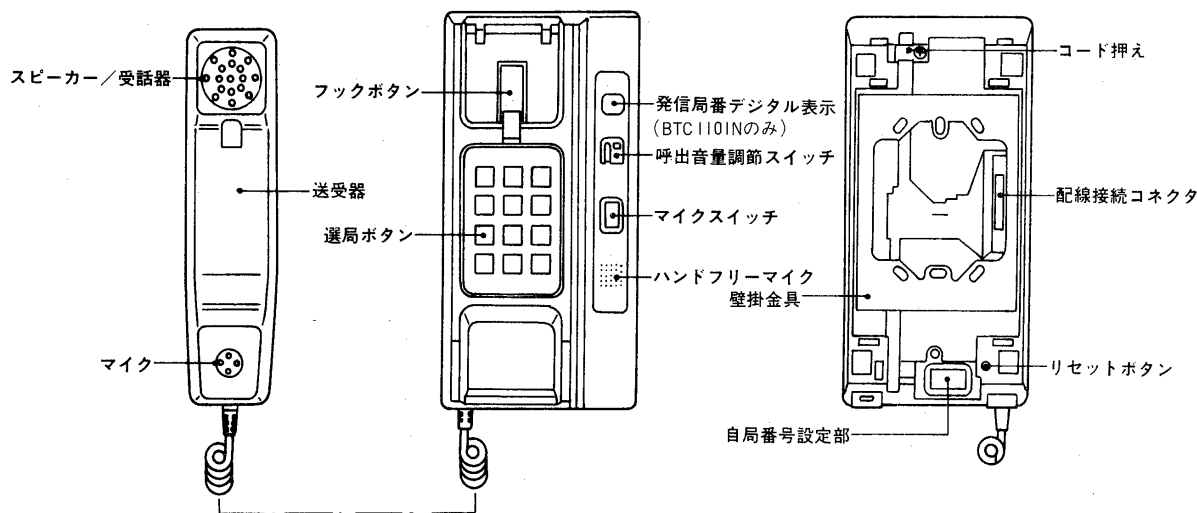
TOSHIBA

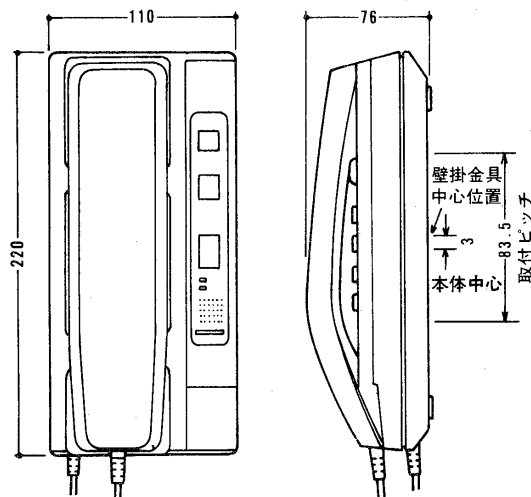
東芝インターホン取扱説明書

70局用親機 BTC1001N　BTC1101N(呼出先表示付)

このたびは東芝インターホンをお買いあげいただきましてまことにありがとうございました。お求めのインターホンを正しく使っていただくため、この取扱説明書をよくお読みください。お読みになったあとは、必ず保存してください。

名部のなまえ

仕　様

- 通話網の方式　相互式
- 通話方式　同時通話式、ハンドフリー通話可能
- 電源　DC24V(HJP2401使用)
  動作電圧　DC15～24V
- 消費電流　待受時　25mA
  通話時　80mA(BTC1001N)
  120mA(BTC1101N)
- 呼出方式　呼出音：電子トレモロ音(ポロポロ･･･)
  音声呼出：直接「音声」による呼出
- 選局数　70
- 通話路数　3
- 配線数　電源 ················ 2線
  通話 ················ 2×(必要通話路数：最大3)線 ･･･ 最大6線
  全局一斉放送 ········ 2線
  グループ一斉放送 ･･･ 2線：グループ内で配線
- 設置　設置形式　壁掛・卓上兼用形
  設置場所　屋内専用
  使用周囲温度　－10℃～50℃
- 重量　570g(BTC1001N)
  600g(BTC1101N)
- 外観色調　材質　ホワイト及びワームブラウン、ABS樹脂
- 付属品　壁掛金具 ･･･ 1、ねじ　M4×25×2、木ねじ　3.8×16×2
  局番設定用8連ピン×2
  コネクター(12P) ······ 1

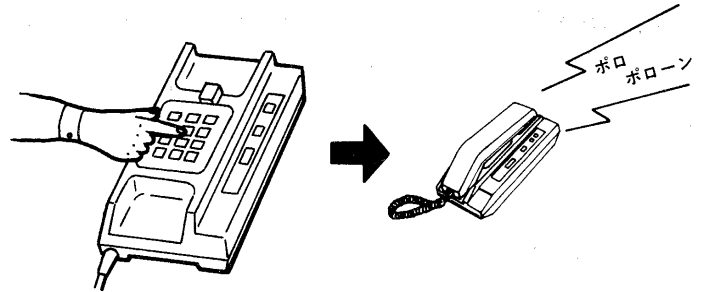
外形寸法図

ご注意とお願い

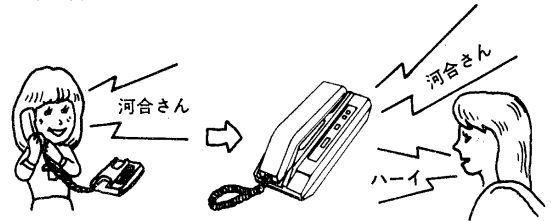
- 送受器を耳に当てているときは、フックボタンを押さないでください。押しているときに呼出を受けると呼出音などで耳を傷めることがあります。
- 機器の汚れは、やわらかい布に中性洗剤を含ませておふきください。シンナーやベンジンなどを使用しますと機器を傷めます。
- 機器の分解や改造はおやめください。故障の原因となります。

使いかた

■呼び出す場合

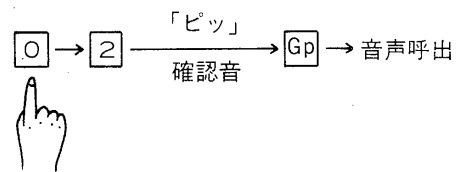
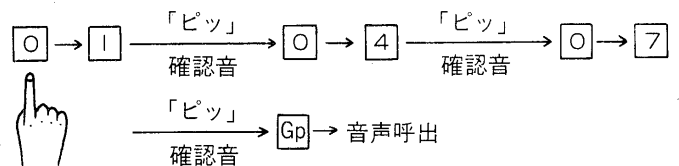
- 送受器を取り、相手先の局番(２けた)を選局してください。
- 相手側で鳴っている呼出音(ポロポロ …)が小さく聞こえ、呼んでいることがわかります。
- 相手機のマイクスイッチが「ＯＮ」の場合、呼出音が鳴ったあと、直接「音声」でも呼び出しできます。
- 相手が応答したら、通話してください。

- 送受器を取ったとき、話中音(ピーピー)が聞こえたら通話路が全て使用中ですので、あくまでお待ちください。
- 選局して相手が通話中の場合も話中音が聞こえます。
- 送受器を取ったまま、または選局を中断して約18秒しますと話中音が聞こえますので、一旦送受器を掛けて再度選局してください。

■呼ばれたら

- 呼出音が鳴りましたら、送受器を取るだけで通話できます。(BTC1101Nでは呼んできた局番が表示されます。)
- マイクスイッチをＯＮ(押し込む)にしますと、送受器を取らずに通話できます。…(ハンドフリー通話といいます。)
- あらかじめマイクスイッチをＯＮにしておきますと、呼出音が１回鳴った後、すぐにハンドフリー通話ができます。
- ハンドフリー通話中に一旦送受器を取りますと、送受器による通話状態に戻ってしまいますので、送受器を掛けますと通話は切れてしまいます。

■グループ一斉放送(グループページング)をする場合(グループ単位で一斉に呼び出すことができます。)

■一斉放送のしかた

- 送受器を取り、相手グループ番号(２けた)を選局し、「ピッ」という確認音が聞こえたら、ボタン [Ｇｐ] を押しながら、直接「音声」で呼び出し、手を離して応答をお待ちください。
- 同時に３グループまで呼び出すことができます。「相手番号選局」「確認」をくり返し、[Ｇｐ] ボタンを押しながら、直接音声で呼び出してください。
- グループ一斉放送は通話中の受話器にも小さく聞こえます。

(例)02グループ(局番20～29)に一斉放送する場合

(例)01，04，07グループに同時一斉放送する場合

■応答のしかた

- 呼出しがありましたら、送受器を取り [Ｇｐ] ボタンを１回押しますと通話できます。同時に５人程度まで応答できますので会議通話もできます。
- 送受器を取ったとき、話中音(ピーピー)が聞こえることが、ありますが、[Ｇｐ] ボタンを１回押しますと通話できます。

■全局一斉放送をする場合

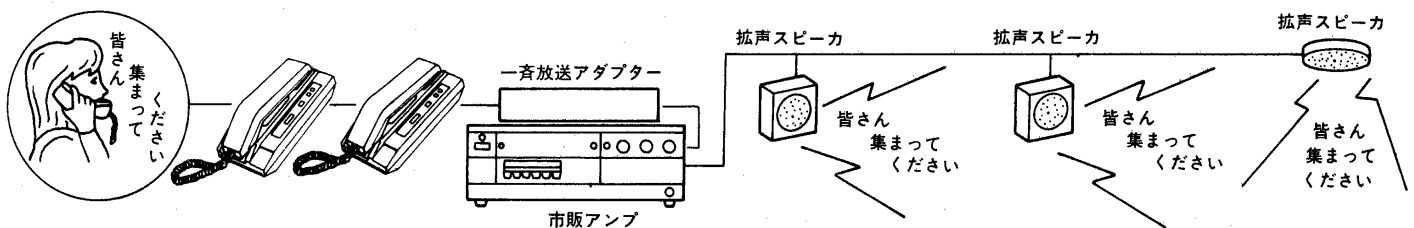
●送受器を取り、 Ａｃ ボタンを押しますと一斉放送予告音(ポーン)が全局に鳴りますので、そのままボタンを押しながら直接「音声」で一斉放送してください。

●一斉放送は通話中の受話器にも小さく聞こえます。

●一斉放送には応答できません。

■市販のアンプを使用して拡声スピーカで一斉放送する場合

●送受器を取り、 Ａｃ ボタンを押しますと一斉放送予告音(ポーン)がスピーカから鳴りますので、そのままボタンを押しながら、直接「音声」で一斉放送してください。

●音声はアンプに入力され、拡声スピーカより一斉放送ができます。

■不在転送の場合(自分の席を離れる場合、行先の局に呼出を転送することができます。)

●送受器を取り 8 ボタンを押した後、行先(転送先)の局番(２けた)を押してください。

●転送がセットされますと、確認音「ピッピッピッ‥‥」が聞こえますので、送受器を掛けてください。

●転送を解除する場合は、送受器を取り再度掛けるだけです。

■その他の使いかた(詳細は各アダプターの取扱説明書をお読みください。)

■玄関との通話

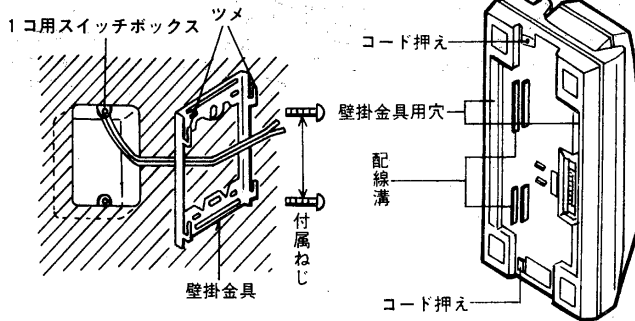
●ドアホンアダプター(ＢＴＣ１０５１)を使用しますと、ドアホン子機を接続でき、玄関との通話ができます。ドアホン子機は最大２台(アダプター２台必要)接続できます。
呼出音は「ピンポン」と「ポロポロ」です。呼出音により、あらかじめセットされたドアホンアダプターの局番を選局して通話します。局番は任意に指定できます。

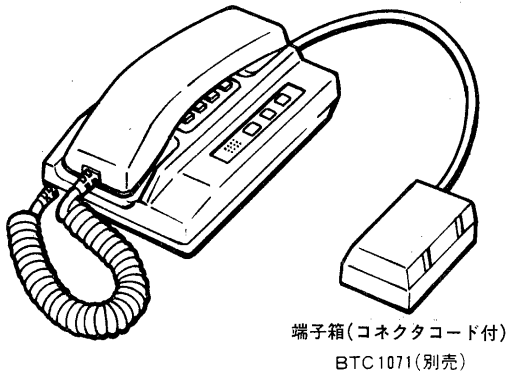
設置のしかた

■設置上のご注意

このインターホンは屋内専用で、－10℃～＋50℃の範囲で使用するように設計してつくられています。次の場所には設置しないでください。

- 直射日光のあたるところ、暖房器具の真上、－10℃以下の製氷倉庫。
- 浴室など特に湿度の高いところ。
- 水や薬品、有害ガスのかかりやすいところ。

■壁掛形で使用するとき

- 壁掛金具を付属ねじで固定し、配線コネクターを本体に確実に差し込んでから、本体を金具に掛けてください。
- 付属ねじは、スイッチボックス用(M４×25・・・・２本)、木ねじ(　3.8×16・・・・２本)があります。
- 柱や壁などに直に取り付ける場合、配線コードは上下どちらからでも取り出せます。いずれの場合でもコード押えを通してください。

■卓上形で使用するとき

- 卓上形で使用する場合、別売の端子箱(コネクタコード付(BTC1071)を使用しますときれいに仕上ります。
- 配線コードはコード押えを通してください。

接続のしかた

1. 接続のしかたにより次の機能があります。

①通話だけの場合

- 3通話路式　同時に(AさんとBさん、CさんとDさん、EさんとFさん)の通話ができます ………… 接続例1
- 2通話路式　同時に(AさんとBさん、CさんとDさん)の通話ができます ………………………… 接続例2
- 1通話路式　AさんとBさんが通話中は、他の人は通話できません ………………………………… 接続例3

②一斉放送する場合

- グループ一斉放送　グループ毎に最大3グループに一斉放送できます ……………………………
- 全局一斉放送　全局に一斉放送できます ……………………………………………………………… 接続例4

③市販の放送装置に接続して、拡声スピーカで一斉放送する場合 ……………………………………… 接続例5

2. 接続時のご注意

①配線の接続は、圧着端子等を使用して、確実に、誤配線のないように接続してください。
②コネクターを抜くときは、線材を引っぱらずにコネクターをつまんで抜いてください。
③雑音や誤動作防止のため、インターホン以外の制御線や電灯線とは離して配線してください。
④ラジオやテレビの放送局、アンテナ周辺で、電波の影響により使用できない場合は別売のノイズフィルター(BTC1072)をご使用ください。

3. 配線材料と通達距離

		0.3	0.5	0.75
線種	公称断面積(mm²)	0.3	0.5	0.75
	より線(本/mm)	12/0.18	20/0.18	30/0.18
	単芯線(mm)	0.65	0.8	1.0
通達距離(m)	インターホン間	2000	2000	2000
	インターホン~電源間	300	500	750

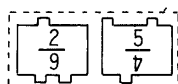
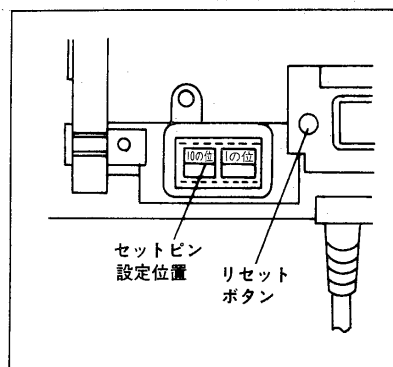
電源装置は、インターホン10台につき1台必要ですが、左の表(インターホン　電源間)の距離を越える場合は電源装置の設置位置や、設置台数にご注意ください。

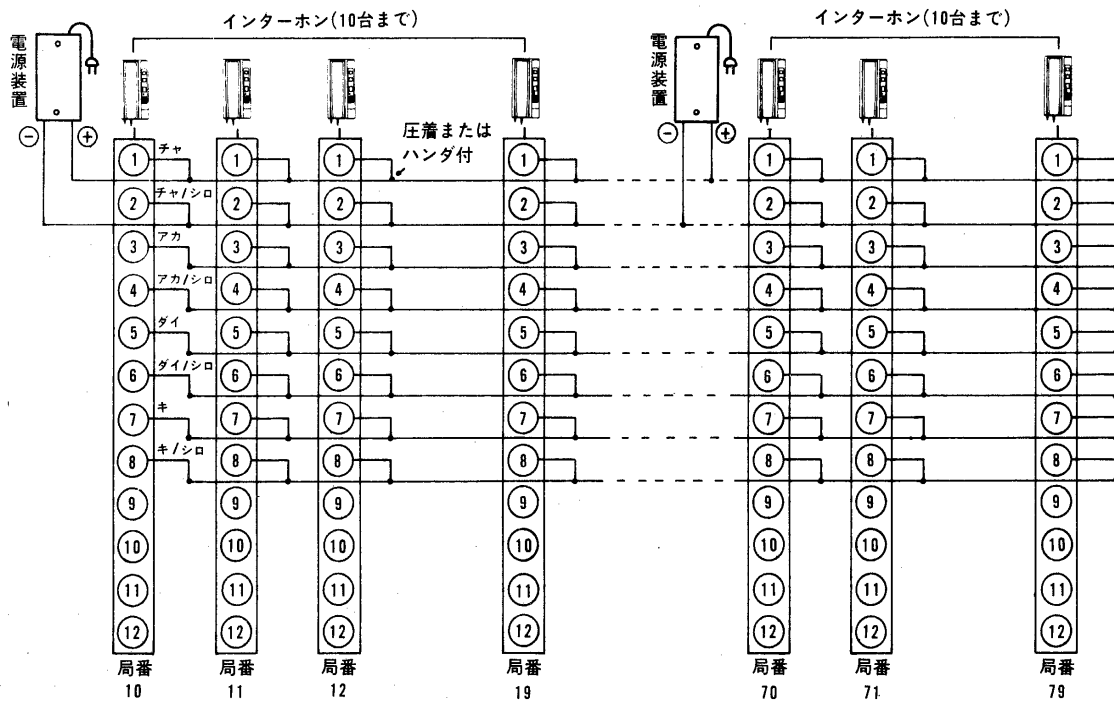
4. 局番の設定方法

①各インターホンの局番(10~79)を同一番号がないように設定してください。局番は付属の局番表に記入してご使用ください。
②付属品の局番設定ピンは、8連ピンが2本入っていますので、1個ずつ折り曲げて切り離してください。
③インターホン裏側にある局番設定ピンソケットの左側に10の位、右側に1の位のピン番号を選んで、はめ込んでください。
④1の位が0の場合は、ピンを入れる必要はありません。

例) 25番

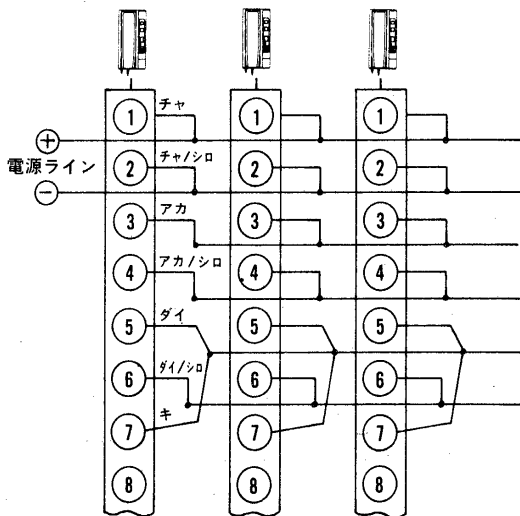
上部の数字が設定ピン番号になります。

⑤不要の局番設定ピンは、局番変更の時必要になりますので保存してください。
⑥電源投入後に番号を変更する場合は、変更後に必ずリセットボタンを押してください。

接続例１（３通話路の場合）　配線数８線……２線(電源)＋６線(通話)

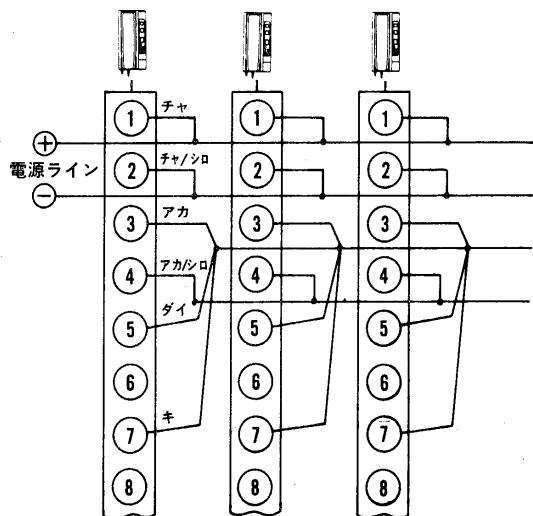
- 電源装置(ＨＪＰ2401)はインターホン10台につき１台必要です。
- 局番は10～79まで自由に設定できます。

接続例２（２通話路の場合）

配線数６線……２線(電源)＋４線(通話)

- ⑤(橙)と⑦(黄)を短絡して接続してください。

電源ライン
チャ
チャ/シロ
アカ
アカ/シロ
ダイ
ダイ/シロ
キ

接続例３（１通話路の場合）

配線数４線……２線(電源)＋２線(通話)

- ③(赤)と⑤(橙)と⑦(黄)を短絡して接続してください。

接続例 4 (グループ一斉放送、全局一斉放送の場合)

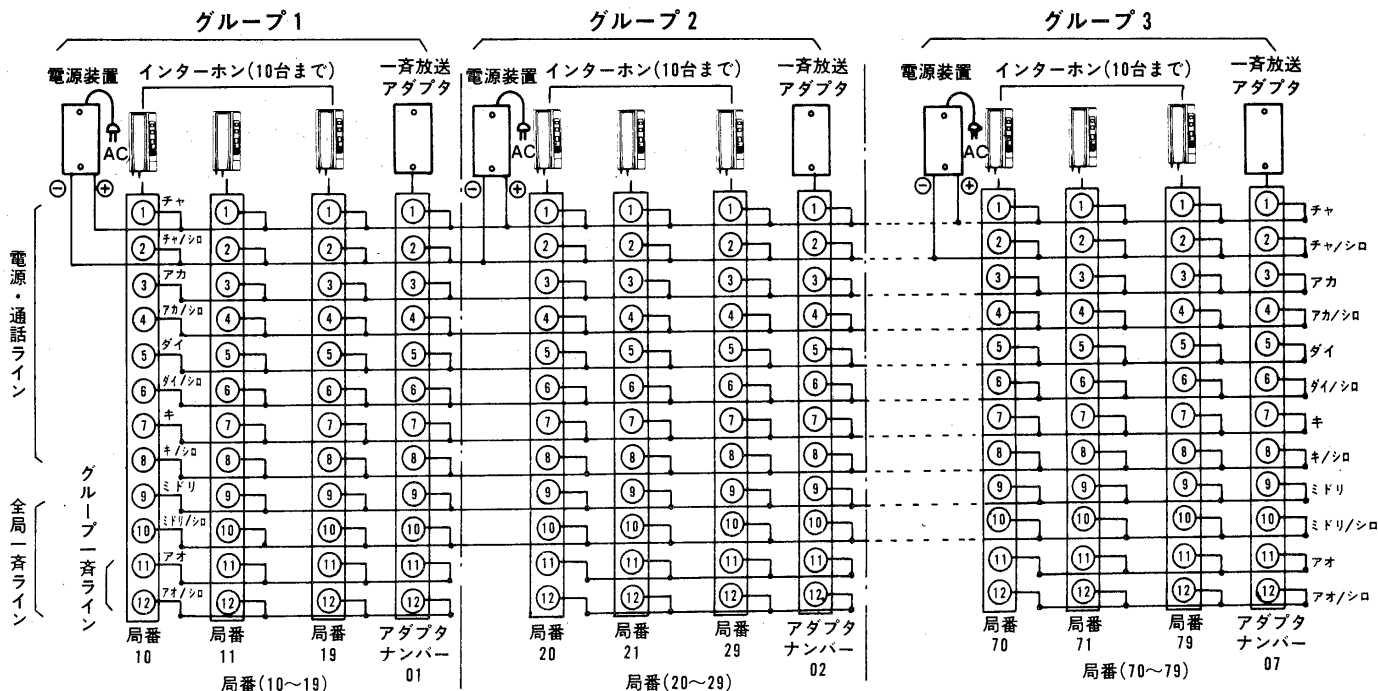
- 一斉放送アダプター(BTC1081)は各グループ毎(インターホン10台まで)に1台必要です。
- 電源ライン①、②、通話ライン③～⑧については接続例1～3を参照してください。

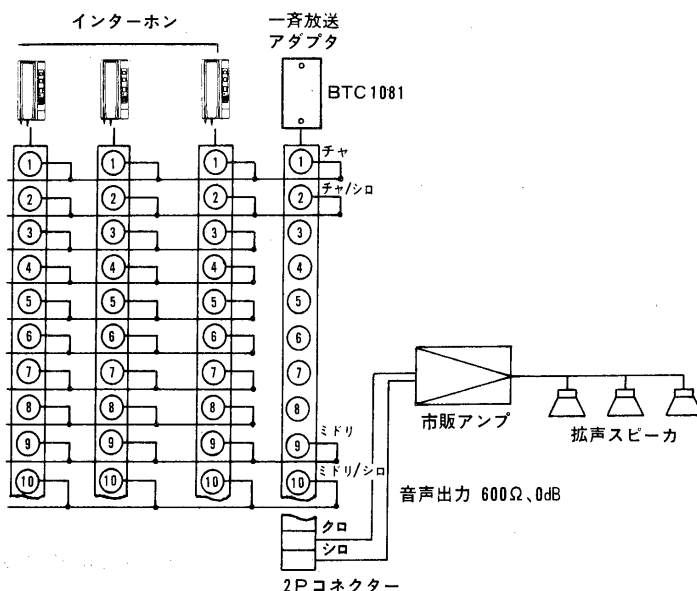
①グループ一斉放送だけの場合

グループ内において⑪(青)と⑫(青/白)の配線が必要です。⑨、⑩の配線は不要です。グループ一斉放送の必要がないグループは⑪、⑫の配線は不要です。

②全局一斉放送の場合(全局一斉放送の接続をしますとグループ一斉放送もできます。)

- すべてのインターホン、一斉放送アダプター間の⑨、⑩、および各グループ内で⑪、⑫の配線が必要です。
- 全局一斉放送を受けたくないところは⑪、⑫の配線は不要です。

③グループ一斉放送及び全局一斉放送の必要がないグループの配線は一斉放送アダプターが必要ありません。また⑨、⑩、⑪、⑫の配線も不要です。

接続例 5 (市販放送用アンプを通じて一斉放送する場合)

- 一斉放送アダプター(1台)をインターホンと接続してください。配線は4本(①、②、⑨、⑩)です。
- 市販アンプの電源は常時入れておいてください。
- 一斉放送アダプターからの音声出力(付属2Pコネクターにより出力を取れます。)をアンプへ入力してください。音声出力は600Ω、0dBとなっています。コネクターの黒リード線をアンプ側不平衡入力のアースに接続してください。

修理サービス

ご使用中に異常が生じたときは、お使いになるのをやめ、電源装置の電源プラグをコンセントから抜いて、お買いあげの販売店(工事店)または、お近くの東芝お客様ご相談センターにご相談ください。
なお、ご相談されるときは形名(BTC1001N)または(BTC1101N)およびお買いあげ時期をお忘れなくお知らせください。

■修理を依頼される前につぎの点についてお調べください。

症状は	調べていただくこと
すべてのインターホンが使用できない。	●電源装置のＡＣコンセントがはずれていませんか。 電源表示灯が点灯しているか確認してください。
1台だけ使用できない。	●本体裏のコネクターがはずれていませんか。 使用できないインターホンをはずし、正常なところのインターホンと取りかえても使用できない場合はインターホン不良です。場所をかえて使用できた場合、配線をご確認ください。
誤動作、または呼出ができない。	●近くに放送局や放送アンテナがありませんか。 強い電波により、インターホンが使用できなくなることがあります。別売のノイズフィルター(BTC1072)を使用しますと正常に使えるようになります。 ●全ての電源を一旦切るか、誤動作するインターホン リセットボタンを押してください。

東芝ライテック株式会社 住宅機器事業部 〒140-8660 東京都品川区南品川2-2-13(南品川JNビル) TEL(03)5463-8777